

大の阪

盆踊り

国指定重要無形民俗文化財



魚沼市 越後堀之内の歴史的背景

江戸時代中期頃、植物の繊維から作られる「越後縮」は堀之内宿に集められ、越後三大市場として、たいそうな賑わいであったと言われています。

越後縮は、縮問屋に集められ主に三国街道の陸路によって運搬されたと考えられます。そのとき同時に様々な唄や踊りも伝えられ、その中に「大の阪」もあったのではないかと考えられています。かつては堀之内の通りを踊り流していました。新型コロナウイルス感染症が流行した令和二年には、大の阪流しが行われました。



大の阪の会

魚沼市教育委員会

〒946-8601 新潟県魚沼市小出島910番地

TEL 025-793-7480

踊り方

内陣をつくり、太鼓の拍子に合わせて時計廻りで踊ります。

手が肩の線から下がらないように踊るときれいに踊れます。

一

左足を軸に両手と共に右へ体を回し右足を斜め後ろに引く



太鼓・カチ

二

左足を引いてふみ揃え手を打つ



太鼓・ドン

三

左足をやや斜め前にふみ出すとともに、右上手左手下にして



太鼓・カチ

四

体を左に回しながら両手先を内まわしに円を描き、ハの字をつくる(体は中心を向く)



太鼓・カチ

五

右横から両手を左に流しながら左足より歩を起こし右足を出す



太鼓・カチカチ

六

左足をトンとふみ揃えて手を打つ(体は進行方向)



太鼓・ドン

くりかえし

あらまし

盆踊り「大の阪」は魚沼市城之内の八幡宮境内で八月十四日から十六日に踊られます。起源は定かではありませんが、江戸中期頃に越後縮商人の行き来のなかで伝えられたと言われております。平成十年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



歌い方

音頭 大の阪 ヤーレ 七曲り駒を

踊り子 ハアヤレンリヤ よくめせ旦那様

音頭 よくめせ駒を 南無西方

踊り子 よくめせ旦那様

—意味—
 ここは「大の阪」と言って、セヶ所に曲がる場所があります。今お乗りになっている駒(馬)を上手に扱ってくださいませ、旦那様。

歌詞

- ◆ 大の阪、七曲り駒をよくめせ旦那様
- ◆ てんま町の橋にねて笠をとられた、川風に
- ◆ 三才鹿毛の駒、江戸で値がする、八両する
- ◆ 十三で糸をとれば糸はほそらで、身が細る
- ◆ 十七は箆の鳥、箆がせまくて、遊ばれぬ
- ◆ お寺町後生願う、おらも数珠買うて後生願う
- ◆ お山の下り藤、花は咲けども実はならぬ
- ◆ 召せやめせ桔梗の腰、桔梗はよいものしゃんとして
- ◆ 酒屋の酒びしゃく、昼は暇ない夜さござれ
- ◆ ふれやふれ肩と腰、腰をふらねばしながない
- ◆ 踊り場へ砂をまく、夜さりや約束すなすなと
- ◆ 頼みます今宵ばか、明日は野山のしおれ草
- ◆ 小川の尾長鳥、小鮒くわいてふらしゃらと
- ◆ 油屋の油火は、細うて長うてとろとろと
- ◆ しようと言った、さしようと言った宿のかかめが
- ◆ 邪魔入れた

継承

後継者の育成の取り組みとして、保育園や小学校の運動会、体育祭の他、魚沼子ども芸能祭にも協力しています。



小学校での練習風景



中学校体育祭での大の阪



ステージ発表

